

# 行政区・ここが知りたい!

矢板市にある67の行政区。このコーナーでは、かわら版記者が注目した各行政区独自の取り組みをご紹介します。

## 泉行政区

### ■住民参加のほたるの里づくり

そろそろゲンジボタルも飛び始める、梅雨入り直後の六月の朝、泉小学校の裏手を流れる大江川沿いにたくさんの人がかまや草刈り機を手に集まりました。今日は、全戸参加で川岸の草刈りを行います。以前にかわら版でもご紹介した泉地区のホタルの里づくり。現在も住民の手によって、クレソンを植えたり、カワニナを放流したりと、環境整備に取り組んでいます。ホタルの里作りというキーワードが住民の結束を強めているようです。

### ■45年続くスポーツ大会

ある人が「泉には長年続いている運動会があるんだよ」と、自慢そうに話してくれたのを思い出して、そのことをお聞きしました。

泉地区十四行政区全部の小一から中三までの子どもと保護者が参加して行われる子供会育成会スポーツ大会は

## 地域の力

今年で45回目を迎えます。この日は学校も行事を入れずに協力。準備を通して、いろいろなことが子どもたちを思い出し、そのことをお聞きしました。

今年で45回目を迎えます。この日は学校も行事を入れずに協力。準備を通して、いろいろなことが子どもたちを思い出し、そのことをお聞きしました。

の皆さんに了解していただいているとのこと。「いろいろ大変ですね」と言う、「楽しんでやっていますから!」

### ■高齢者対応は大事な課題

「月に一回の広報は、班を抜けた高齢者には区長の私が直接届けるようにしています。先日も新聞がたまっていて誰もいないので、すぐに民生委員に電話し、近くに住む娘さんに連絡を取ったところ入院しているところわかり安心しました。近所の人も知りませんでした。独居の高齢者には月に二回、福祉担当が届けられますから、広報配布の時とあわせて週一度は誰かの目が届くことになりましたが、



### ■勤めながら区長職を

津久井徳(のぼる)さんは建設会社で働きながら区長を務める多忙な日々。いろいろなことを相談しサポートしてくれる人が周りにいなければとても務まりませんが、この連携の強さが泉の力かもしれません。届いた広報は夜整理して翌日配布することになってしましますが、これも区民



## 矢板四区

「四区の自慢は何ですか?」石塚国雄区長にお聞きすると、「特に無いよ!」そんな事はないだろうと思ひ、さらに聞くと「向こう三軒両隣の精神で『区民の融和と助け合い』が四区民の生活の基本です」との返事が。本人にとってはおく当たり前のことが、大事な宝物であることがまあるが、その好例なのだろう。

### ■元気な高齢者でいっぱい

四区は約四四〇世帯で、そのうち約30%が六十五歳以上の世帯のため、高齢者を対象とした活動が不可欠。公民館での、そば打ちは月一回、お楽しみ会も月二回、そのほかに民謡なども...

グラウンド・ゴルフも年に一回大会があり、そのために毎週練習を行っている。さらには壮年のソフトボールは矢板市内ではトップクラスのチームで、優勝旗や賞状は置く場所が無いほど数多くの表彰を受けている。

### ■伝統ある文化財を継承

特筆すべきこととして、四区の屋台の「正面の鬼板」が矢板市有形文化財に指定されていることがあげられる。これは一見の価値がある。(一面の写真参照)

(注、文化財に指定されても、その維持に必要な費用はすべて四区が負担している)

そして、祭りでのこの屋台に花を添えるお囃子保存会があるが、これは、曾祖父の代から引き継いでいるらしいとのこと。

保存会のメンバーは現在約二十人。子どもは十人ほどで、最年少は幼稚園の年長組、親子で参加しています。祭りの時以外にも、病院などのレクリエーションにお囃子を演奏することも。

しかしながら、会員からの会費と行政区からの助成金ではとても苦しく、例えは太鼓も、材料を買って、自分で作ってすこしでも安く出来るようにやりくりするなどの苦勞も。

「お囃子には楽譜が無く、耳で聞き、目で見、体で覚えるものなので、一度覚えれば一生忘れることがない伝統芸能。ぜひ多くの子どもたちに継承してもらいたい」と保存会の池田稔会長。



お囃子を通して世代を超えての交流が